

馬路村の給与・定員管理等について

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

区 分	住民基本台帳人口 (令和6年1月1日)	歳 出 額 A	実質収支	人 件 費 B	人件費率 B / A	(参考) 令和4年度の人件 費率
令和5 年度	人 7 9 9	千円 2,555,245	千円 80,545	千円 395,737	% 15.5	% 16.3

(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区 分	職員数 A	給 与 費			
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B
令和5 年度	人 40	千円 149,855	千円 18,963	千円 53,123	千円 221,941

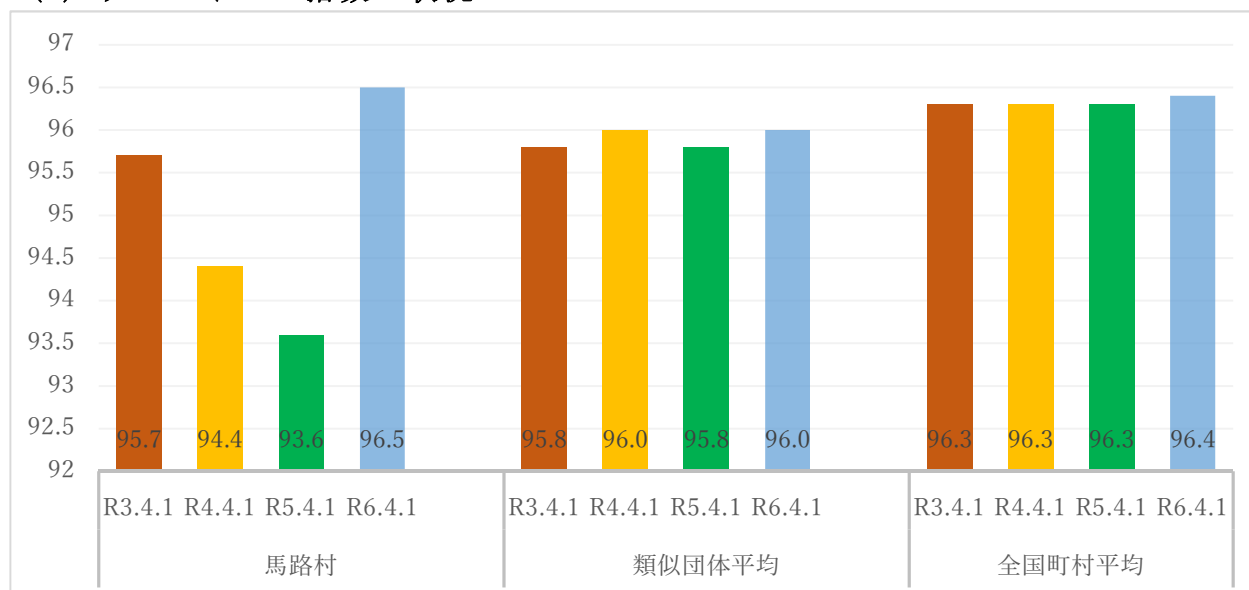
(参考)一人当た り給与費 B / A	(参考)類似団 体平均一人当 たり給与費
千円 5,548	千円 5,514

(注) 1 職員手当には退職手当を含まない。

2 職員数については、令和6年4月1日現在の人数である。また、任期付短時間勤務職員、暫定再任用職員（短時間勤務）、定年前再任用短時間勤務職員及び会計年度任用職員を含まない。

3 給与費については、任期付短時間勤務職員、暫定再任用職員（短時間勤務）及び定年前再任用短時間勤務職員の給与費が含まれているが、会計年度任用職員の給与費は含まれていない。

(3) ラスパイレス指数の状況



(注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数（構成）を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表（一）適用職員の俸給月額を100として計算した指数。

2 () 書きの数値は、地域手当補正後ラスパイレス指数を指す。地域手当補正後ラスパイレス指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給割合を用いて補正したラスパイレス指数。

(補正前のラスパイレス指数×(1+当該団体の地域手当支給割合)÷(1+国の指定基準に基づく地域手当支給割合)により算出。)

3 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。

4 ラスパイレス指数（地域手当補正後ラスパイレス指数を含む）の算出に当たっては、60歳に達した日後の最初の4月1日以降に支給される給料月額について、本来の給料月額の7割水準に設定される職員を除いている。

※ 令和6年4月1日のラスパイレス指数が、①3年前に比べ1ポイント以上上昇している場合、②3年連続で上昇している場合、③100を超えている場合について、その理由及び改善の見込み

該当なし

(4) 給与改定の状況

①月例給

区 分	人事委員会の勧告				給与改定率	(参考) 国の改定率
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A－B	勧告 (改定率)		
令和6 年度	円 —	円 —	円 (— %)	% —	% —	2.76%

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパイレス比較した平均給与月額である。

②特別給（期末・勤勉手当）

区 分	人事委員会の勧告				年間支給月数	(参考) 国の年間 支給月数
	民間の支給 割合 A	公務員の 支給月数 B	較差 A－B	勧告 (改定月数)		
令和6 年度	月 —	月 —	月 —	月 —	月 —	4.6月

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は期末手当及び勤勉手当の年間支給月数である。

(5) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

①給料表の見直し

[実施 未実施]

(給料表の改定実施時期) 平成 29 年 4 月 1 日

国の見直し内容を踏まえ、平均 2% 引下げ。若年層については引き下げなし。高齢層については特になし。最大 4% 引き下げ。激変緩和のため、1 年間 (平成 30 年 3 月 31 日まで) の経過措置 (現給保障) を実施。

② 地域手当の見直し

実施内容 (国基準における場合の支給割合及び当該団体の支給割合)

③ その他の見直し内容

特になし

(6) 特記事項

なし

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況 (令和 6 年 4 月 1 日現在)

① 一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
馬路村	38.8 歳	283,867 円	313,328 円	304,209 円
高知県	41.7 歳	309,796 円	375,027 円	330,438 円
国	42.1 歳	323,823 円	—	405,378 円
類似団体	41.0 歳	299,781 円	343,406 円	328,800 円

(注) 1 「平均給料月額」とは、令和 6 年 4 月 1 日現在における職種ごとの職員の基本給の平均である。

2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。

また、「平均給与月額 (国比較ベース)」は、比較のため、国家公務員と同じベース (= 時間外勤務手当等を除いたもの) で算出している。

(2) 職員の初任給の状況 (令和 6 年 4 月 1 日現在)

一般行政職	大 学 卒	187,300 円	201,400 円	196,200 円
	高 校 卒	166,600 円	168,300 円	166,600 円

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況（令和6年4月1日現在）

区 分		経験年数10年	経験年数20年	経験年数25年	経験年数30年
一般行政職	大 学 卒	296,700 円	— 円	392,800 円	— 円
	高 校 卒	275,000 円	— 円	— 円	— 円

（注） 1 当該階層別職員がいない場合は、近似（前後1年）の階層の状況を記載。

2 経験年数区分及び近似（前後1年）の階層に該当する職員がいない場合は「—」と記載。

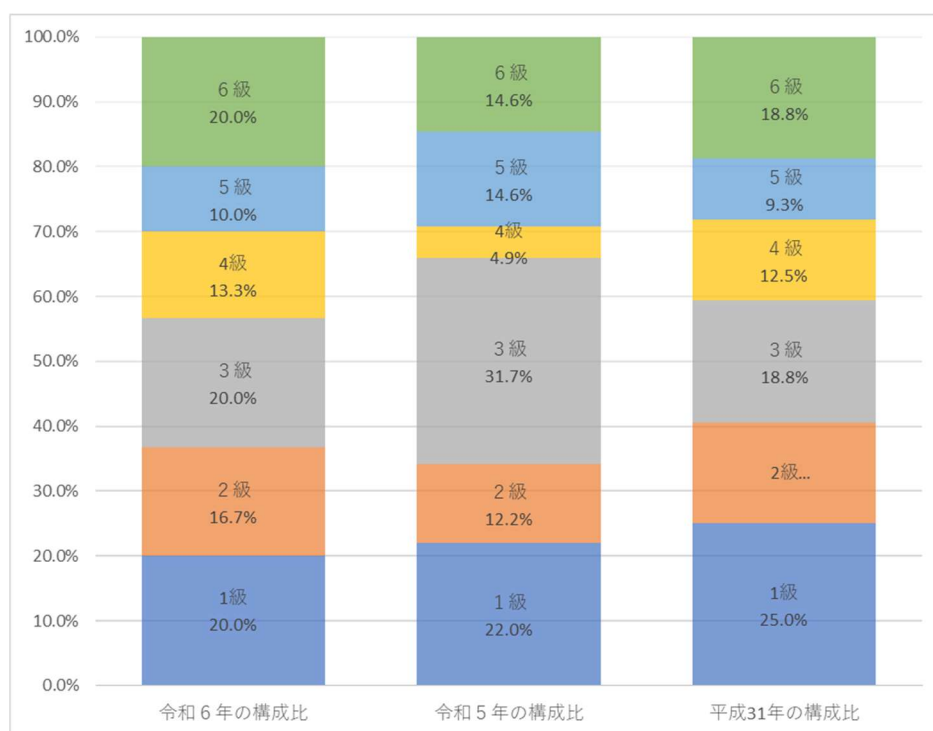
3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数及び給料表の状況（令和6年4月1日現在）

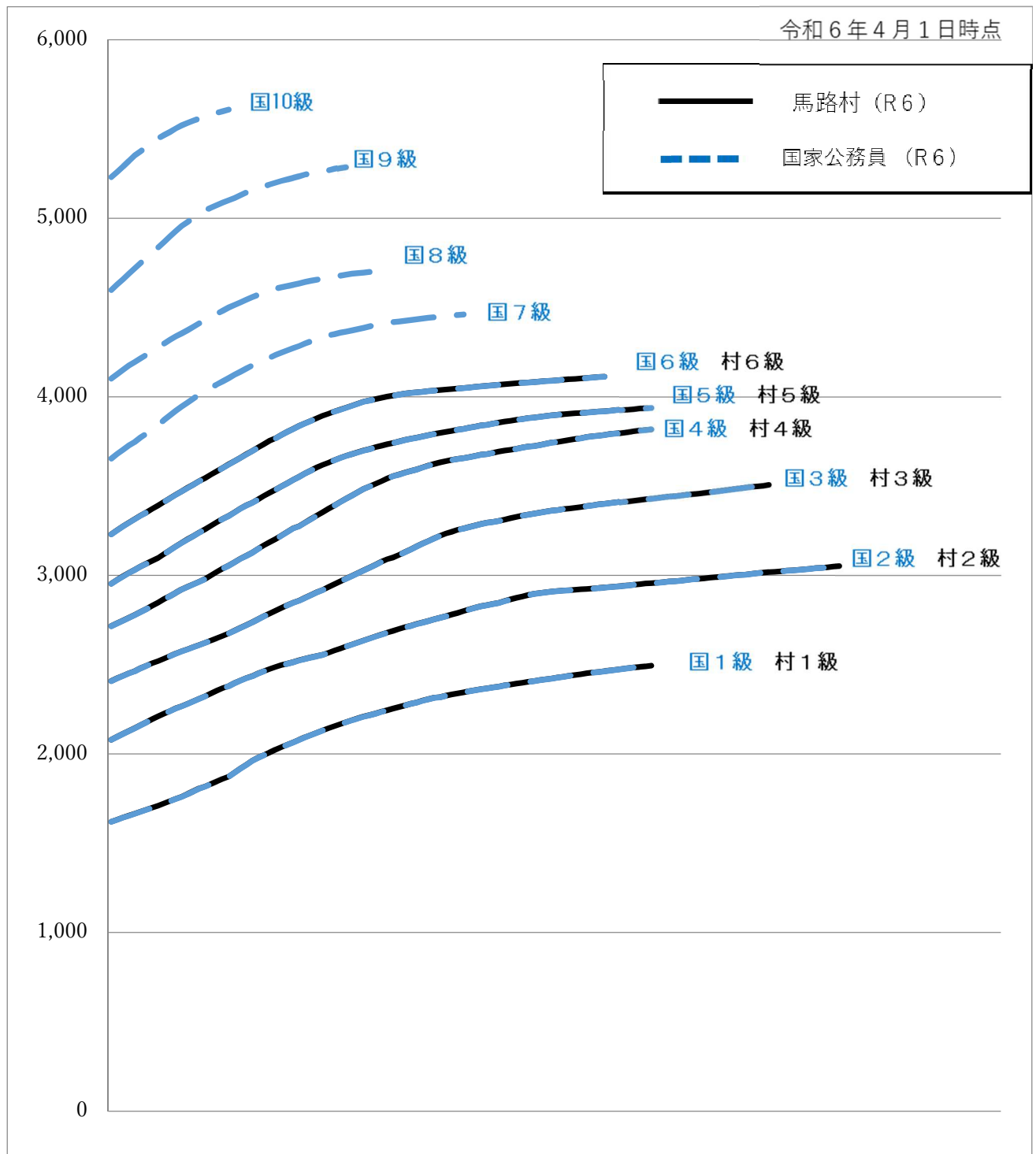
区 分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1号給の 給料月額	最高号給の 給料月額
1 級	主 事 ・ 主 事 補	6 人	20.0 %	162,100 円	249,400 円
2 級	主 任	5 人	16.7 %	208,000 円	305,200 円
3 級	主 幹	6 人	20.0 %	240,900 円	351,000 円
4 級	係 長	4 人	13.3 %	271,600 円	382,000 円
5 級	主 監 ・ 課 長 補 佐 ・ 次 長	3 人	10.0 %	295,400 円	394,000 円
6 級	課 長 ・ 支 所 長 ・ 会 計 管 理 者	6 人	20.0 %	323,100 円	411,300 円

（注） 1 馬路村の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。

2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(2) 国との給料表カーブ比較表（行政職（一））（令和6年4月1日現在）



(3) 昇給への人事評価の活用状況（一般行政職）（馬路村）

令和6年度中における運用	管理職員		一般職員	
イ. 人事評価を活用している	○		○	
活用している昇給区分	昇給可能な区分	昇給実績がある区分	昇給可能な区分	昇給実績がある区分
上位、標準、下位の区分	○		○	
上位、標準の区分				
標準、下位の区分				
標準の区分のみ（一律）		○		○
ロ. 人事評価を活用していない				
活用予定時期				

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

馬路村	高知県	国
1人当たり平均支給額（令和5年度） 1,340千円	1人当たり平均支給額（令和5年度） 1,546千円	—
（令和5年度支給割合） 期末手当 勤勉手当 2.45月分 2.05月分 （1.375）月分 （0.975）月分	（令和5年度支給割合） 期末手当 勤勉手当 2.50月分 1.85月分 （1.350）月分 （0.925）月分	（令和5年度支給割合） 期末手当 勤勉手当 2.45月分 2.05月分 （1.375）月分 （0.975）月分
（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～15% ・管理職加算 10～15%	（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10～20%	（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5～20% ・管理職加算 10～25%

（注）（ ）内は、暫定再任用職員に係る支給割合である。

○勤勉手当への人事評価の活用状況（一般行政職）（馬路村）

令和6年度中における運用		管理職員		一般職員	
イ. 人事評価を活用している		○		○	
活用している成績率		支給可能な成績率	支給実績がある成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率
上位、標準、下位の成績率		○		○	○
上位、標準の成績率			○		
標準、下位の成績率					
標準の成績率のみ（一律）					
ロ. 人事評価を活用していない					
活用予定時期					

(2) 退職手当（令和6年4月1日現在）

馬 路 村			国		
（支給率）	自己都合	応募認定・定年	（支給率）	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	19.6695月分	24.586875月分	勤続20年	19.6695月分	24.586875月分
勤続25年	28.0395月分	33.27075月分	勤続25年	28.0395月分	33.27075月分
勤続35年	39.7575月分	47.709月分	勤続35年	39.7575月分	47.709月分
最高限度	47.709月分	47.709月分	最高限度	47.709月分	47.709月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置（割増率2～20％）			定年前早期退職特例措置		
1人当たり平均支給額 0 千円			（割増率2～45％）		

（注）1 退職手当の1人当たり平均支給額は、令和5年度に退職した職員に支給された平均額である。

2 「応募認定・定年」のうち「定年」には、定年退職及び定年引上げ前の定年年齢に達した日以後その者の非違によることなく退職した場合を含む。

(3) 地域手当（令和6年4月1日現在）

一般行政職について当該制度なし

(4) 特殊勤務手当（令和6年4月1日現在）

支給実績（令和5年度決算）			100 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（令和5年度決算）			100, 000 円	
職員全体に占める手当支給職員の割合（令和5年度）			2.0 %	
手当の種類（手当数）			1	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 （令和5年度決算）	左記職員に対する支給 単価
感染症防疫作業手当	医師	診療業務	100 千円	日額290円

(5) 時間外勤務手当

支給実績（令和5年度決算）	6,779 千円
職員1人当たり平均支給年額（令和5年度決算）	173 千円
支給実績（令和4年度決算）	4,027 千円
職員1人当たり平均支給年額（令和4年度決算）	168 千円

（注） 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（○年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の総職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含む

(6) その他の手当（令和6年4月1日現在）

手 当 名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 （令和5年度決算）	支給職員1人当たり 平均支給年額 （令和4年度決算）
扶養手当	扶養親族のある職員に支給 配偶者6,500円 子 10,000円 父母等6,500円 16歳から22歳までの子1人につき5,000円加算	同		4,354千円	229,200円
住居手当	自ら居住するための住宅を借り受け月額12,000円を超える家賃を支払っている職員 ・月額23,000円以下の職員 家賃の月額から12,000円を控除した額 ・月額23,000円を超える職員 家賃の月額から23,000円を控除した額の2分の1（その控除した額の2分の1が16,000円を超えるときは16,000円）を11,000円に加算した額	異	国の支給対象は月額16,000円を超える職員	2,784千円	174,000円
通勤手当	通勤のため、片道2キロメートル以上自動車等を利用している職員	異	・自動車利用 通勤距離に応じて、月額2,000円	1,999千円	142,800円

	・公共交通機関利用 実費（最高55,000円） ・自動車利用 通勤距離に応じて、月額3,300円～34,400円		～31,600円		
管理職手当	月額33,000円	異	職務の級における最高号給の給料月額の100分の25を超えない範囲	2,376千円	396,000円
管理職員特別勤務手当	・週休日等に勤務する場合 勤務1回につき8,000円（6時間を超える勤務は5割増し） ・週休日等以外の午前零時から午前5時までの間に勤務した場合 勤務1回につき4,000円	異	週休日等の勤務については6,000円から18,000円（6時間を超える勤務は5割増し）、平日深夜については3,000円から6,000円	192千円	16,000円
宿日直手当	日額4,400円			70千円	4,400円
単身赴任手当	単身赴任者に対して月額23,000円（職員住居と配偶者住居の間の距離に応じて45,000を超えない範囲で加算した額）	異	職員住居と配偶者住居との間の距離に応じて月額30,000円～100,000円を支給	0千円	0円

5 特別職の報酬等の状況（令和6年4月1日現在）

区 分		給 料 月 額 等	
給 料	市 区 町 村 長	704,000 円 (— 円)	(参考) 類似団体における最高／最低額 846,800 円／ 528,000 円
	副 市 区 町 村 長	610,000 円 (— 円)	677,700 円／ 481,000 円
報 酬	議 長	250,000 円 (— 円)	400,000 円／ 203,000 円
	副 議 長	200,000 円 (— 円)	314,000 円／ 130,000 円
	議 員	180,000 円 (— 円)	290,000 円／ 109,000 円
期 末 手 当	市 区 町 村 長 副 市 区 町 村 長	(令和5年度支給割合) 3.25 月分	
	議 長 副 議 長 議 員	(令和5年度支給割合) 3.25 月分	
退 職 手 当	市 区 町 村 長 副 市 区 町 村 長	(算定方式) (1期の手当額) (支給時期) 給料×在職年数×500/100 14,080,000円 任期ごと 給料×在職年数×300/100 7,320,000円 任期ごと	
	備 考		

- (注) 1 給料及び報酬の()内は、減額措置を行う前の金額である。
2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年＝48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

6 職員数の状況

(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

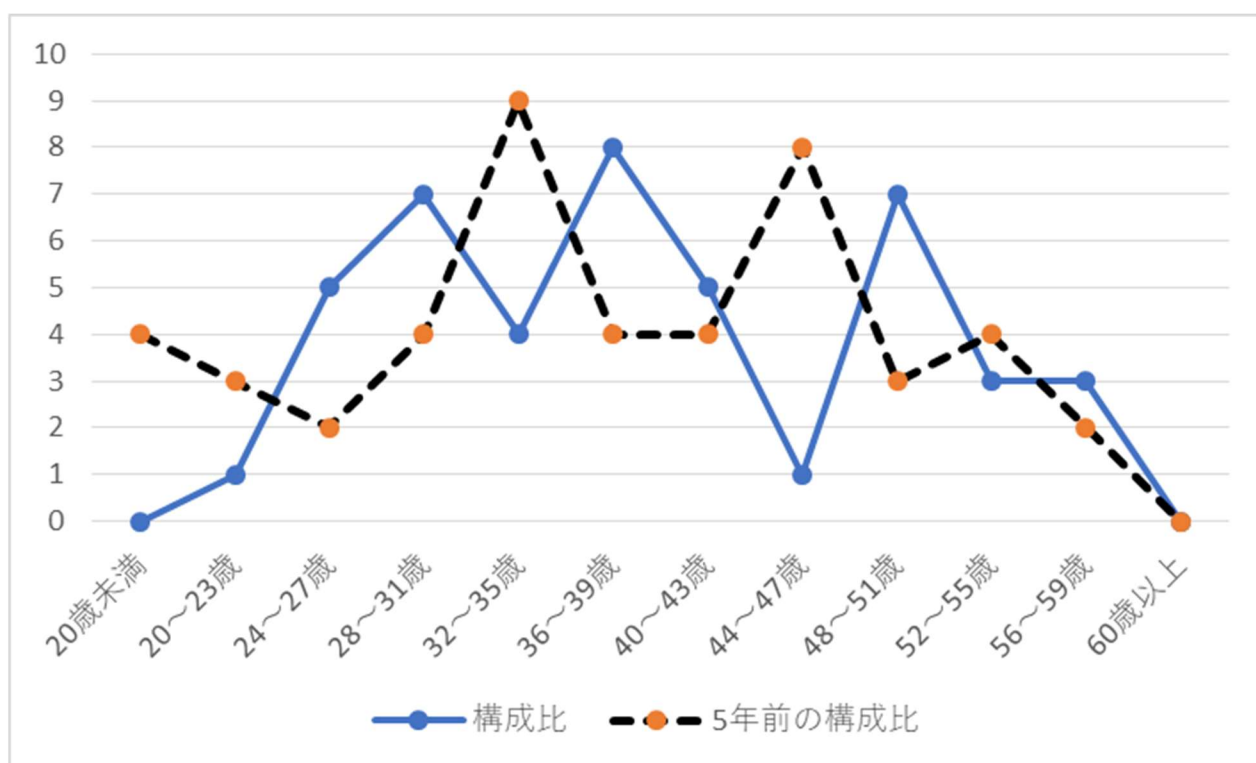
(各年4月1日現在)

区 分 部 門			職 員 数		対 前 年 増 減 数	主 な 増 減 理 由
			令和 5 年	令和 6 年		
普 通 会 計 部 門	一 般 行 政 部 門	議 会	1	1	0	看護 師 2 名 の 新 規 採 用 に 伴 う も の
		総 務 ・ 企 画	13	14	1	
		税 務	2	2	0	
		民 生	9	10	1	
		衛 生	7	7	0	
		農 林 ・ 水 産	2	2	0	
商 工		1	2	0		
土 木		3	2	△ 1		
	計	38	40	2	< 参 考 > 人 口 1 万 当 た り 職 員 数 500.62 人 (類 似 団 体 の 人 口 1 万 当 た り の 職 員 数 204.97 人)	
	教 育 部 門	2	2	2		
	消 防 部 門	0	0	0		
	小 計	40	42	2	< 参 考 > 人 口 1 万 人 当 た り 職 員 数 525.65 人 (類 似 団 体 の 人 口 1 万 当 た り の 職 員 数 241.46 人)	
公 営 企 業 計 等 部 門	簡 水 国 保	1 1	1 1	1 1		
	小 計	2	2	2		
合 計			42 [48]	44 [48]	2 [0]	< 参 考 > 人 口 1 万 当 た り 職 員 数 550.68 人

(注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。

2 []内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況（令和6年4月1日現在）



区 分	20歳 未 満	20歳 ～ 23歳	24歳 ～ 27歳	28歳 ～ 31歳	32歳 ～ 35歳	36歳 ～ 39歳	40歳 ～ 43歳	44歳 ～ 47歳	48歳 ～ 51歳	52歳 ～ 55歳	56歳 ～ 59歳	60歳 以 上	計
職員数	人 0	人 1	人 5	人 7	人 4	人 8	人 5	人 1	人 7	人 3	人 3	人 0	人 44

(3) 職員数の推移

（単位：人・％）

部 門 別 \ 年 度	令 和 元 年	令 和 2 年	令 和 3 年	令 和 4 年	令 和 5 年	令 和 6 年	過 去 5 年 間 の 増 減 数 (率)
一般行政	43	42	42	41	38	40	△3(△7.3%)
教育	3	3	3	2	2	2	△1(△33.3%)
消防	0	0	0	0	0	0	—
普通会計計	46	45	45	43	40	42	△4(△9.1%)
公営企業等会計計	2	2	2	2	2	2	0(0.0%)
総合計	48	47	47	45	42	44	△4(△9.1%)

（注）1 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数。

2 合併した団体にあつては、合併前の年については合併前の旧団体の合計職員数。